

庭野平和財団

Niwano Peace Foundation

2005年度報告書

(2005年度事業実施分のみ)

都市スラムにおける

社会的弱者のための収入向上事業

この報告書に関しましては、2004年10月1日から2005年12月30日まで3つのプロジェクトに対するご支援についてのご報告とさせていただきます。

●概要

庭野平和財団（立正佼成会一食平和基金）から3年間継続支援として都市スラム及び地方の人々における社会的弱者のための収入向上事業を実施してきました。

- ①バティック作り（ろうけつ染め）の講習
- ②椰子殻細工及び織物（原始機）講習
- ③コンピュータ講習

●事業の目的

- ①スラムや地方の人々に、職業訓練の機会を提供すること
- ②子どもたちや青年たちに、余暇を有効的に利用してもらうこと
- ③地方のよき伝統文化を受け継いでいくこと
- ④子どもと保護者が協力して活動し合う機会を提供すること

活動内容

事業	1年目	2年目	3年目
バティックづくり（ろうけつ染め）講習	1. 関心のある受講生の募集 ・奨学生30人 ・スラム地区の子ども20人 ・奨学生の保護者10人 2. 実習 30人 3. 製作開始 30人	1. ラチャダー・ブンクム地区で講習開始 30人 2. 新アイデアの採用 カード作りをし、正月用カードの販売などが収入向上に役立つようになった。	1. 受講生から講師になった人 5人 2. 津波被災地で講習後、100人が受講 職業グループ結成

事業	1年目	2年目	3年目
椰子殻細工及び織物（原始機）講習	<p>1. 受講生の募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女子生徒 50人 ・主婦グループ 15人 <p>2. プランづくり</p> <p>3. 技術指導及び市場開発</p> <p>受講生の関心が強く、原始織の知識や椰子殻細工の技法を習得中</p>	<p>1. 職業訓練の実践</p> <p>2. 受講生の募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女子生徒 50人 ・主婦グループ 15人 <p>3. 製品化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市場開発 ・財団のショップで販売 <p>4. グループ独自で製品化し、販売</p>	<p>1. OTOP（1村1品運動）の商品として製作</p> <p>2. 受講生の募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女子生徒 50人 ・主婦グループ15人 <p>3. タイクラフトにて販売</p> <p>4. 職業グループ結成</p>
デジタル講習（コンピュータ講習）	<p>1. コンピュータ修理講習 40人</p> <p>2. 受講後、コンピュータの修理等可能</p>	<p>1. コンピュータの修理講習 20人</p> <p>2. プログラム使用法の講習 72人</p> <p>*受講後、実践可能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スキャン使用法の講習 2,500枚をスキャン ・デジタルからコンピュータへの保存可能 ・インターネットの取扱い ・アクセスの講習 ・プログラム（Movie Maker）の講習 ・接続コードの取扱い方を習得

【バティックづくり講習】について

●概要

庭野平和財団（前回は立正佼成会）から3年間の継続的なご支援をいただき、都市部の社会的弱者の収入向上事業に有効に活用することができました。特に「バティック作り講習」活動は3年間、順調に進めることができました。この事業では、地域の子どもたちや失業者たちにとって大変役立つものとなりました。

また、2年目には、バンコク郊外にあるラチャダー・ブンクム託児所（スワナプラシッティ1地区）でも同様の講習を実施し、30人が講習を受けた後、それぞれ作品を製作し、家計の一助となっております。

これらの受講者の作品は、ハンカチ、バッグ、ランチョンマットなどいろいろな製品として、財団のハンディクラフトショップに置かれています。

さらに、2004年12月26日に起きた大津波では、南タイ6県の地域に被害をもたらし、人々は家屋や職業を一瞬にして失くしましたが、当財団では早速、貴会からのご支援金を被害者の心を癒す活動としてバティック作り（ろうけつ染め）に振り向けました。これによって大きな成果を得ることとなりました。

受講者たちは、専門的技術を習得するための視察見学にも参加し、現在ではそれぞれの技術の向上に力を入れています。

●目的

1. 保護者の職業促進のため
2. バティックづくりを職業とする保護者グループの協調性を持つため
3. スラム地区の子どもたちにバティックづくりを推進するため
4. 余暇の利用法を知るため
5. 保護者の収入向上のため
6. 保護者と子どもと一緒に活動できること

●受講対象者 60人

- ・奨学生 30人
- ・スラム地区の子ども 20人
- ・奨学生の保護者 10人

*備考：講習を実施した3年間で、実際の対象者は100人以上に及んでいます。

●効果

1. バティック作りを職業とする保護者グループの連携ができたこと
2. 保護者と子どもたちが一緒に活動できたこと
3. 生計を助ける収入を得られたこと
4. 製品を販売する機会を得られたこと

5. 新商品を開発し、財団のクラフトショップに納品できたこと
6. 財団訪問客に対してプロジェクトの紹介ができたこと

●問題点

1. 商品化されたバティックの価格が高めなため、販売が難しいこと
2. 製作者に芸術性が要求されるとともに、一枚一枚の製品が完璧であることが求められるが、現段階ではそれが難しいこと
3. 市場開拓が困難で、今後、国内外に販売先を広げていかなければならないこと



バティックづくりメンバーの紹介



①トムヤー・ソンシー（４９歳）

第４－５－６地区に５人家族。夫は日雇労働をし、一日２００バーツの収入。子どもが財団から奨学金をもらっていたことから財団と関わり、奨学生保護者グループのリーダーとして活躍。一方、財団のバティック講習に参加し、興味を持つ。研修期間中も家が近いため、家事ができたことと、年齢的にも就職先が難しいことから受講。現在では、職業として収入もあり、家計を補っている。製品作りに集中でき、技術も進歩し、完成した製品には満足している。

②スリポーン・ウースワン（３４歳）

第４－５－６地区に６人家族。１０年前に子どもが財団から奨学金をもらうようになったことから財団と関わり、奨学生保護者グループのリーダーとして活躍。当初は子どもの養育法について受講をし、やがてバティック講習に参加。受講後、製品づくりに励むが、上手くできないことも多かったが、現在は技術を磨いて商品化でき、収入を得ている。



【織物（原始機）と椰子殻細工】について

カレン族の伝統工芸を守り、3年間継続支援を受けて、作品づくりを実施してきました。現地の学校と地域では、すでに職業訓練事業として行っていましたが、特に女子生徒や関心のある受講者を対象とし、使用する材料なども草木染め（地元にある草木を利用）にこだわり、徹底した技術指導を受けることができました。

●受講対象者

- *女子生徒 50人
- *主婦グループ 50人

●製品の数々

1. ショール
2. カレン織バッグ
3. 動物型の人形
4. クロスターや箸セットなど



受講者の紹介

①ウィライワン・リンチョン（14歳）

現在、バーンヤーンナムグラッタイ中学校1年生。3人姉妹の長女。両親は牛飼いの日雇労働で、一日100バーツの収入。因って彼女自身も家計を助けるためにも何らかの収入を得る必要がある。将来は地方の教師になりたいという夢があるが、家庭が貧しいので実現できるかどうか不安を抱えている。

彼女は、幼少の頃からカレン族の織物に興味を持っていたので、講習を受けて制作活動に参加でき、最近ではきちんとした商品を作ることができるようになった。



椰子殻細工について

椰子殻は地元で植えている椰子の木から取れ、非常にコストが安く、手に入りやすいものです。カット次第でかなり素敵なデザインの製品作りが可能です。

●受講対象者

- ・男子生徒 50人

●製造過程

1. デザインの考案
2. 椰子殻の選択
3. 殻の表面を磨く
4. 製作に取り掛かる

●成果（織物及び椰子殻細工）

1. カレン族の伝統工芸を次世代に保存できること
2. 余暇を有効的に活用できること
3. 主婦グループや生徒たちが収入を得られること
4. 生徒たちの中で協調性が育まれること
5. 織物の技術を習得できること

●製品の出品場所

- ・地域のフリーマーケット
- ・県主催の OTOP 展示会場
- ・タイクラフトセール
- ・アンバサダーホテルの展示会場



受講者の紹介



②ウォラポン・コンワイ（14歳）

現在、バーンタートラクロ中学校2年生。3人兄弟の長男。両親はサトウキビの収穫に従事し、一日に平均100～150バーツの収入しかない。サトウキビ畑の収穫の時期が終われば、パイナップルの収穫作業をするというように、常に不安定な状態である。

因って彼が椰子殻細工の講習に参加して、研修後は作品作りに励み、自分で得た収入で学用品を購入している。最近は、自分の技術力も出てきた。

【コンピュータ（デジタル）講習】について

3年間のプログラムでは、次の活動を実施してきました。

年度	内容	人数
2002年度	コンピュータの操作及び修理	40人
2003年度	1. コンピュータの操作及び修理 20人 2. 受講者 72人	112人
2005年度	1. スキャン指導 3. インターネット指導 4. アクセス指導 5. Movie Maker の指導	2,500人 40人 15人 12人



受講生の紹介

①ボア・ノンマイ（21歳）

現在、ウィタヤライバングナー高等専門学校2年生。
ラムチャイパタナー地区で家族と暮らす。
受講した動機は、コンピュータに関心があり、基礎的
技術を見つけたかったこと。

今は高度な技術を学んでいる最中で、将来は大勢
の子らに指導したいと願っている。



②ジェナロン・ウォラチュン（20歳）

現在、ラムカムヘン大学2年生。リントンロットファイ地
区で家族と暮らす。

受講した動機は、高校在学中から就職にはコンピュータ技
術を知らないと採用されないと思い、機会があれば学びた
いと願っていた。将来は警察官になるのが夢で、実現した
場合には、様々な分野で活用できると思う。